

# 名古屋芸術大学グループ 通信

43  
April  
2018

## 第45回 卒業制作展 開催



応用、発展、  
試行錯誤  
わたしの作品に  
会いました？

### Close up! NUA-ism ～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OB

素材どうま味

服部隼弥 / 那須裕樹

NUA-Student

音楽領域 ミュージカルコース 4年生  
小椋奈々

名古屋芸大グループ校特集

■ 滝子幼稚園の教育

コラムNUA

芸術と交差する教養

芸術教養領域教授 茂登山 清文

■ 出版

### Master & Artist

マスター & アーティスト

素材と向き合う魅力

美術領域 アートクリエイターコース(彫刻)

教務学生主任 教授

岩井義尚

大学からのお知らせ

■ 平成29年度寄附事業について



NAGOYA UNIVERSITY  
OF THE ARTS

名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学 / 大学院：音楽研究科 学部学科：芸術学部 芸術学科 ■名古屋芸術大学保育専門学校  
美術研究科 音楽領域 デザイン領域 ■名古屋芸術大学附属クリエイティブ幼稚園  
デザイン研究科 美術領域 芸術教養領域 ■滝子幼稚園 ■たきこ幼稚園  
人間発達学研究科 人間発達学部 子ども発達学科 ■愛知保育園 ■名古屋音楽学校

# 開催 卒業制作展 第45回

応用、発展、  
試行錯誤  
わたしの作品に  
会いました？



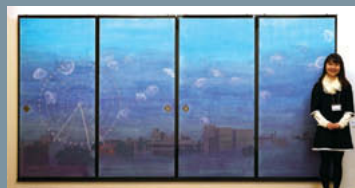
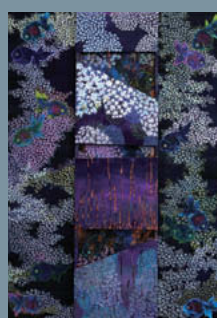
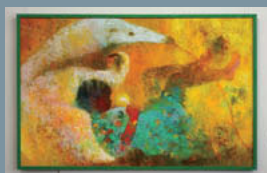
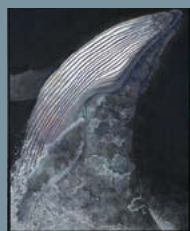
名古屋芸術大学  
卒業制作展

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS  
GRADUATION EXHIBITION

寒さが緩み梅のつぼみがほころぶこの季節、本年も卒業制作展が開催されました。卒業制作展は、それぞれの学部、コースの卒業生による4年間の集大成として作品を発表する場です。例年ならば愛知芸術文化センターで開催となるわけですが、今回は改修工事のため休館となり、初めての試みとなる本学西キャンパスでの開催となりました。このため、会場の設営には大わらわ。教員も学生も、開場前日まで作業に追われ、作品のみならず会場までも、文字通り手作りの展覧会となりました。たくさんの人の手を借り作品と会場ができあがっていくプロセスは、紛れもなく4年間の学校生活そのもの！ のどかで伸びやかな学校の雰囲気の中、作品と普段の学生たちの様子を見ることのできる和やかな卒業制作展となりました。



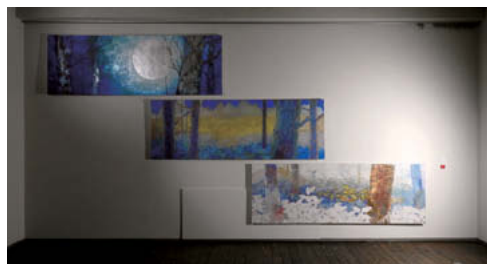
- アートクリエイターコース
- コミュニケーションアート
- 彫刻
- 版画・平面
- 日本画コース



■ ■  
アートクリエイター  
コース (彫刻)  
卒業制作優秀賞  
ブライトン大学賞佳作  
《手をつなぎたい》  
木下千穂



■  
アートクリエイターコース  
(コミュニケーション  
アート)  
卒業制作優秀賞  
《蠢動》  
筒井涼太



■  
日本画コース  
卒業制作優秀賞  
《刻『留まる・追う・移ろう』》  
亀山絢香

■  
アートクリエイター  
コース (版画・平面)  
ブライトン大学賞  
佳作  
《ハナシノタネ》  
大沢理沙



<おことわり>卒業制作展受賞作品のほとんどを掲載していますが、全ではありません。

## 2月17日(土) 卒業制作展の オープニングセレモニーが行われました

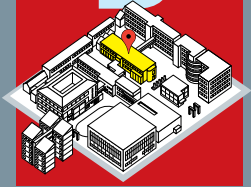
北名古屋市市長 長瀬保様をお迎えし、竹本義明学長、芸術学部長萩原周教授が列席しました。司会、進行は美術学部美術学科アートクリエイターコース (美術文化) 4年の黒崎真実さんが務めました。セレモニーは、竹本学長のあいさつに始まり、長瀬市長から祝辞をいただ

き、学生代表の美術学部美術学科アートクリエイターコース 木下千穂さん、デザイン学部デザイン学科テキスタイルデザインコース新美沙里さんの2名が、自身の作品紹介を行いました。続いて、列席者によりテープカットセレモニーが行われ、音楽学部演奏学科の学生の金管五

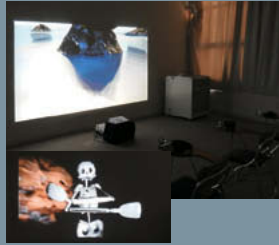
重奏によるファンファーレが鳴り響く中、名古屋芸術大学第45回卒業制作展の開場が宣言されました。



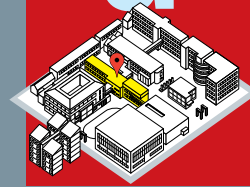
# B棟



- アートクリエイターコース  
陶芸・ガラス
- メディアデザインコース
- コース紹介
- 総合受付(カフェ)



# G棟



- アートクリエイターコース  
コミュニケーションアート  
陶芸・ガラス  
版画・平面  
美術文化
- メディアコミュニケーション  
デザインコース
- メディアデザインコース



## 校内各所で展示、スタンプラリー、卒展ギャラリーカフェも

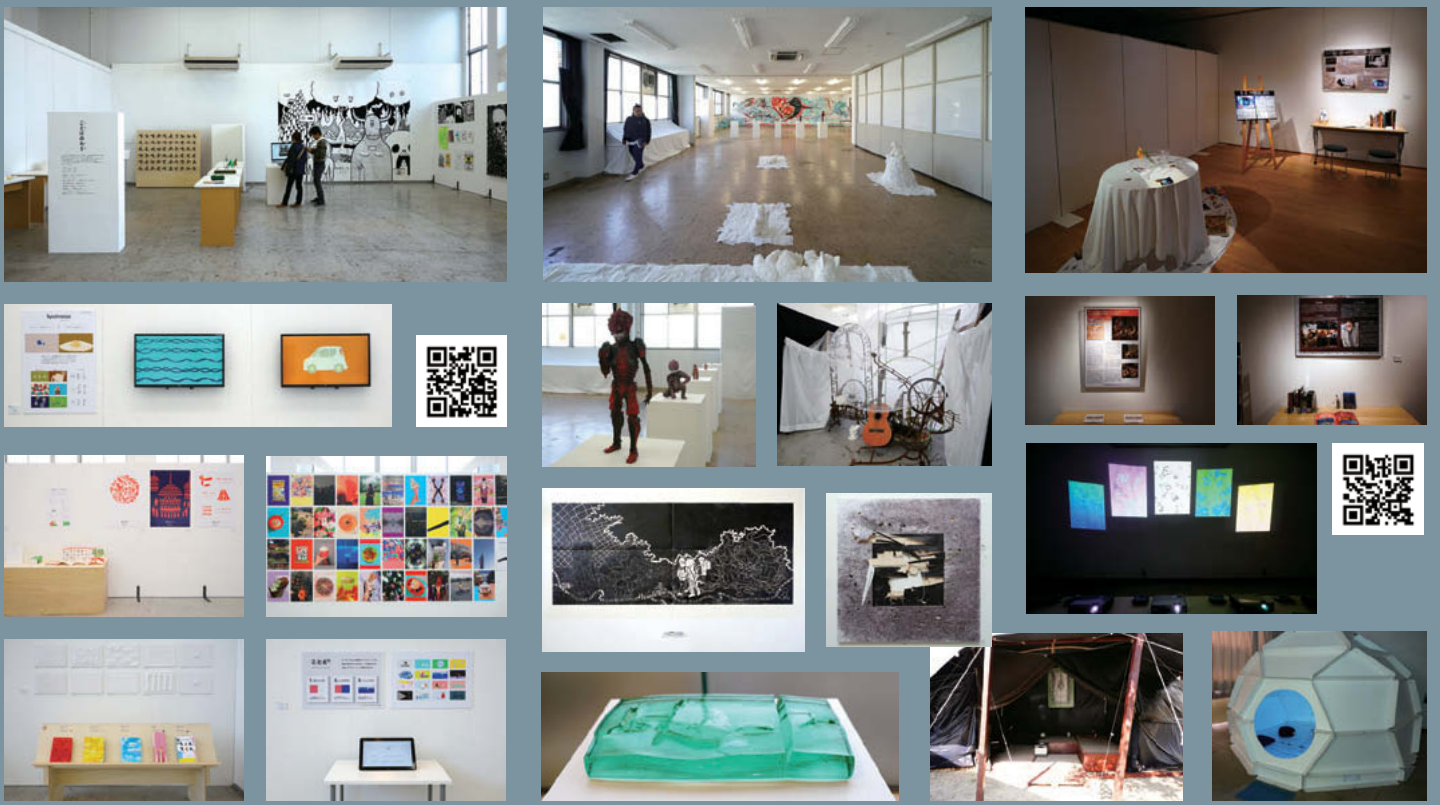
作品展示は、西キャンパスの校舎全体を使って行われました。校内の随所に案内板が置かれ、展示の見学のため、観覧者はあちこち校舎を移動。スタンプラリーも行われ、オリエンテーリングや宝探しゲームのような楽しさもありました。ADセンター、総合受付の横では、学生の運営による卒展ギャラリーカフェも出店。販売されている作品やグッズを選びながら、休憩する来場者の姿も見られました。



## 2月18日(日) 卒展記念講演会 Vol.1『観光客の哲学』と芸術の使命 講師 東 浩紀(株式会社ゲンロン代表、批評家)

卒展記念講演会 Vol.1として、批評家であり作家でもある東浩紀氏をお招きし、『観光客の哲学』と芸術の使命という演題でお話いただきました。「観光客」とは、これまでの哲学や現代思想ではあまり考慮されていない概念で、共同体の内側(村人)でも外側(旅人)でも存在を示し、内側と外側の両

方に属し、また、どちらにも属さない存在です。しかし、歴史的に見れば、19世紀以降、人類は観光旅行をするようになり、今日では1日あたり500万人が国境をこえている現実があり、当事者と非当事者というだけでは括りきれない現在の世相を言い表しているといえます。カール・シュミットの政治理



■  
メディア  
コミュニケーション  
デザインコース  
卒業制作優秀賞  
《ことばのわざ》  
宮下遙



■  
メディアデザインコース  
卒業制作優秀賞  
《スガタ・カタチ》  
森謙一



■  
メディアデザインコース  
卒業制作優秀賞  
《アイデンティティ・  
Identity・我們的存在》  
施亜希子



■  
アートクリエイター  
コース(陶芸・ガラス)  
ブライトン大学賞  
佳作  
《静かな鼓動》  
清水理紗子

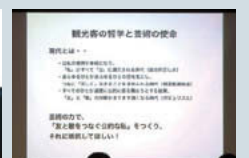


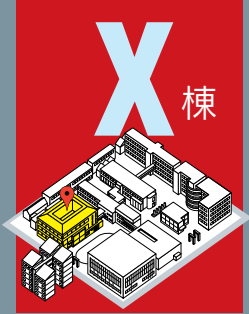
論、友敵理論を引きながら、アメリカのトランプ現象、イギリスのEU離脱、日本でも憲法改正論議などを例に、現代はどちらを支持するのか、「友」と「敵」を鋭く区分する社会になってきていると説きます。こうした現代社会の中で、賛成、反対だけではない別の形態の思考はないか、もっと柔軟に考えることはできないのかということで考え出されたのが、観光することによる「私的

な経験や感じ方。その変化が新しい見方や建設的な議論になるのではと提示します。現代は、SNSの普及などにより、互いに監視し合うようなことになり、作家の表現が萎縮してしまうという問題も発生しています。「私」で処理していた部分も「公」に吸い出されることで、自由が奪われてしまっている現状があります。芸術家は、世の中の「友」と「敵」の区分を攪乱し、「私」が

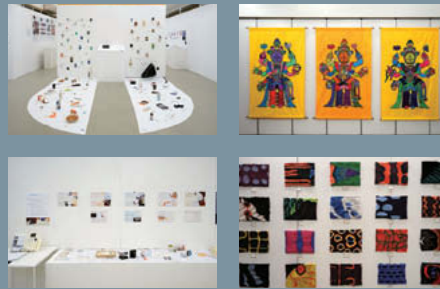
「公」に回収されないような表現をすることで社会に介入し、その表現の鑑賞者を社会や「公」から引きはがし自由にするのが、その使命だと説明します。そうして、その実践としてゲンロン

を運営し、チェルノブイリへのダークツーリズムであると説明しました。単純にすべての人が正しさを求めて「友」と「敵」に分かれる時代に、抵抗して欲しいとエールを送りました。





- インダストリアルデザインコース
- テキスタイルデザインコース
- デザインマネージメントコース
- メタル&ジュエリーデザインコース



■ インダストリアルデザインコース  
卒業制作優秀賞  
《SWING STOOL》  
加藤優璃



■ インダストリアルデザインコース  
卒業制作優秀賞  
《DISH TOWER》 蔭山春香

■ ■  
メタル&ジュエリー  
デザインコース  
卒業制作優秀賞  
テラッセ納屋橋賞  
《楽園へ》  
金球鈴



■ デザインマネージメントコース  
卒業制作優秀賞  
《モノ溜まり-レジ袋編》 栗山和



■ インダストリアルデザインコース  
卒業制作優秀賞  
《FLOW》 櫻井博之

■ ■  
デザインマネージメントコース  
卒業制作優秀賞  
ブライトン大学賞優秀賞  
《「歩」は「個」を表す》  
大坪奈央



■ ■  
デザインマネージメントコース  
卒業制作優秀賞  
ブライトン大学賞奨励賞  
《It Happened One Day》  
村田唯菜

■ テキスタイル  
デザインコース  
卒業制作優秀賞  
《Zipper》 川口有紀



2月19日(月) アートコレクションと若手アーティスト支援の楽しみ  
『学市学座 コレクター・アイ・デイ』が行われました

ゲストが非営利団体・ワンピース倶楽部代表の石鍋博子氏と名古屋支部長の山本真寿美氏、アートコレクターの田中英雄氏と林直樹氏が、司会進行は、家村佳代子氏(ディレクター・建築家・キュレーター・日本芸術文化国際交流財団理事など)が担当しました。

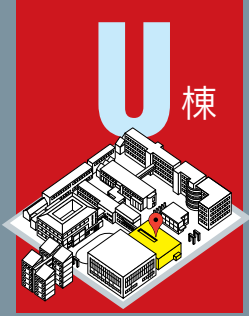
石鍋氏と山本氏はワンピース倶楽部の活動状況について、田中氏は、林氏と共に、ユニット『チーム・

ガラバゴス』を作り、グループ展の企画や展示会のカタログ制作、オルタナティブな展示スペースなどへのセルフビルド・サポートについて語りました。



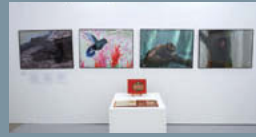
2月22日(木) 2017年度ブライトン大学賞授与式と祝賀会が行われました

「ブライトン大学賞」は、英国のブライトン大学が、本学の卒業制作作品の優秀者に贈る賞で、本学からは、ブライトン大学の学生に対し「名古屋芸術大学賞」を贈り、交流を深めています。ブライトン大学からDuncan Bullen先生(美術学部学部長代理)と、Patrick Dyer先生(テキスタイルコース修士課程コースリーダー)が作品を審査し、受賞者が決定。各賞の発表と入賞作品の講評が行われ、表彰状と



棟

- インダストリアルデザインコース
- ヴィジュアルデザインコース
- スペースデザインコース
- セラミックデザインコース
- メディアコミュニケーションデザインコース



スペースデザインコース  
 ブライトン大学賞佳作  
 《IRODORI》塚松秀夫



ヴィジュアルデザインコース  
 卒業制作優秀賞  
 《物の役割と形》森川陽加



スペースデザインコース  
 卒業制作優秀賞  
 福建ホーム賞銀賞  
 《「ふつう」を観る》野原颯太



メディアコミュニケーションデザインコース  
 卒業制作優秀賞  
 《39ちゃん》村下未空



メディアコミュニケーションデザインコース  
 ブライトン大学賞佳作  
 《大江戸お楽しみ図鑑》  
 安藤万由子



スペースデザインコース  
 総合資格特別賞  
 《階段三昧! ~居心地の良い空間を作り出す階段~》  
 岡本瞳



ヴィジュアルデザインコース  
 ブライトン大学賞奨励賞  
 《諸行無常》  
 鈴木涼子

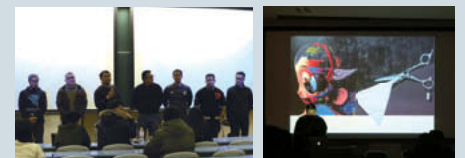
賞金が手渡されました。その後、名古屋芸術大学後援会会長平井友明氏の挨拶と乾杯で祝賀会が行われました。

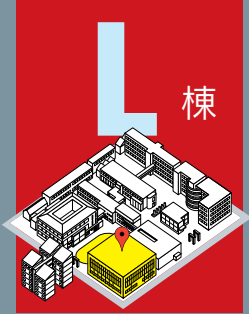


2月23日(金) マラ工科大学教員による特別プログラム  
 「マレーシアのアートとデザインの教育現場から」

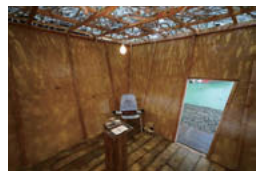
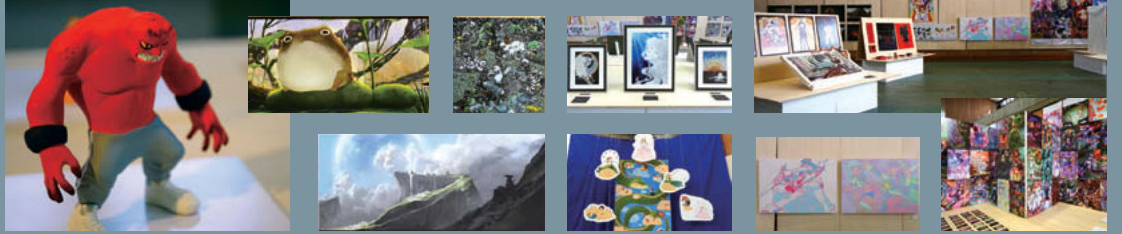
マレーシアの文化の中で育まれたアートやデザインについて、現場で教育を行う専門家が来校しプレゼンテーションを行いました。発表された内容には、日本との関わりのあるものも多く、手捏ね(てづくね)と呼ばれる方法で成形した軟質施釉陶器である「楽焼」の作品や、日本のマンガやコミックを素材とした絵画、雑誌やコミック誌の表紙デザイン、アニメーションビデオ、アートのマーケットにつ

いて調査したもの、マレーシアの先住民族の手芸品や日用品のデザインについて研究したものなど、多彩な内容でした。





- アートクリエイターコース  
コミュニケーションアート
- イラストレーションコース
- テキスタイル  
デザインコース



■アートクリエイターコース  
(コミュニケーションアート)  
福建ホーム特別賞  
チーム・ガラパゴス田中賞  
《cv new punks》  
横井崇将



■テキスタイルデザインコース  
ブライトン大学賞 佳作  
《めぐり》新美汐里



■アートクリエイターコース  
(コミュニケーションアート)  
福建ホーム特別賞  
《EGYPT MYSTERY TOUR》  
佐藤拓未



■イラストレーションコース  
卒業制作優秀賞  
《関ヶ原合戦》  
加藤里奈

2月24日(土) 卒展記念講演会 Vol.2 「かざり」の生命  
講師 辻 惟雄(美術史学者)



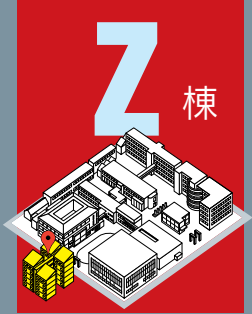
卒展記念講演会 Vol.2として、美術史学者の辻惟雄(つじのぶお)氏をお招きし、美術の中にある「かざり」に着

目し「かざり」の生命という演題でお話いただきました。美術やデザイン、特に日本の芸術は海外からも装飾を

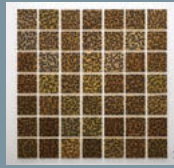
排除して成り立っていると考えられています。茶の湯を生み出し、虚飾を取り去った簡素で洗練された表現を求めて来たように考えられていますが、「かざり」はその逆です。その二つは矛盾しているようでいて、日本美術は両方を練り合わせるようにして展開してきたともいえると説明します。「かざり」という言葉は「かざる」という行為から派生してできた言葉であり、「かざる

という行為は、あるものを飾る役割だけを持ち、それ自体に独立した内容も目的もないため「Fine Art」(純粋美術)たり得ず、一段下位におかれることとなります。しかしながら「かざる」という行為そのものは、人間の本性に根ざしたものであり、生のあかしであり、生の喜びの表現でもある。日本文化の中の「かざり」は、伸びやかで生き生きとしていると説明します。こうした「かざ





- アートクリエイターコース  
コミュニケーションアート
- 洋画1コース
- 洋画2コース



■  
洋画1コース  
卒業制作優秀賞  
《霞》西尾香純



■ ■  
洋画2コース 卒業制作優秀賞  
ブライトン大学賞 グランプリ  
《おやすみは言わずに》  
西田麗良



■  
アートクリエイターコース  
(コミュニケーションアート)  
チーム・ガラバゴス林賞  
《Perfect consciousness〜  
完璧なる意識〜》  
河合里奈



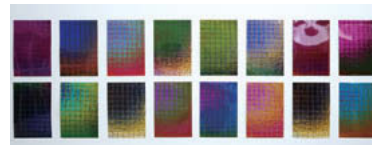
■ ■  
洋画2コース 卒業制作優秀賞  
テラッセ納屋橋賞  
《そつせい kamaitati》下家杏樹



■  
洋画2コース  
takibi 家村賞  
《無題》池上夢与



■  
洋画2コース  
ワンピース倶楽部賞  
《良い世界に向けて  
(中学レポート)》  
大野高輝



■  
洋画2コース  
ワンピース倶楽部名古屋支部賞  
《光の陰影に浮かぶ  
『3原色』の残り香。》  
伊藤真

り」という、美術やデザインの中で消し去られたものにスポットを当て、もう一度、新たな眼でものを見てみようというのが講演の概要で、縄文式土器に施された「かざり」を皮切りに、歴史上の各年代を代表するような美術品、工芸品を見ながら、美術とデザイン、純粋美術と応用美術、さまざまな枠組みを飛び越えて、造形そのものの見方を提示していただきました。

### 2月25日(日) ミニオープンキャンパスを開催しました

卒業制作展最終日は、ADセンター、ギャラリー内に進学相談のブースを設け、美術領域、デザイン領域の教員に自由に質問、相談できる場が設けられました。作品の展示場所にも補助員らが待機し、見学に訪れた高校生や保護者の方々に、作品を解説したり、制作技術などの質問に答

えていました。進学相談コーナーでは、教員に見てもらおうと自分の作品を持ち込む高校生や長い時間教員

と話し込み親子などが見られ、いずれも熱心に相談する姿が印象的でした。



Warm stool  
2016.04



名古屋駅西口、3階建ての建物に事務所があるという。名古屋駅西口はかつては「駅裏」と呼ばれ、東側のオフィス街とは異なり、古くは戦前の遊郭、戦後は闇市、80年代には予備校が建ち並び「親不孝通り」などと呼ばれた場所。その一角に事務所を構える。行ってみると3階建ての1階部分は喫茶店が近日オープンで準備中。階段を上がって2階へ行けば、何も無い広いスペースがあり、その奥の壁で仕切られた小さな部屋が事務所となっていた。「ビルのオーナーと知り合いで、改装からビルのコンセプトというところと大袈裟ですが、運営についても考えました。この周辺は、現在大きな企業が買い取って再開発するという状況です。その中で、個人としてこの建物を使っていくということがひとつのチャレンジなんです。さしあたって20年を目標に、時代に沿う形で運営できるようにしようと考えています。どう進むか読めない世の中ですので、あまり固まらずフレキシブルに対応しながら変わっていける空間を作りました(服部)」なるほど、事

務所側から見れば、壁は石膏ボードを固定しただけの簡単なもの。その気になれば、いつでも自由に変えられる構造になっている。



服部さん、那須さんのお二人は、本学デザイン学部の同級生。入学したときからの付き合いだという。「19歳から、10年以上ですよ。学生の頃も二人で、ああ、こうだと色々なことをやってきました。デザイン事務所という明確な形はありませんでしたが、何かやっていきたいよね、と話していました(服部)」「僕は、大学を卒業して設計事務所に就職したんですが、やはり、将来のために今のうちに勉強しよう。名古屋芸大には設計の学部がないので、住宅設計であれば法律のことや図面の書き方とか一から勉強することになります。苦労しましたが、そのとき、修行したことが今に生かしていると思います(那須)」卒業後、一旦は就職した那須さんに対し、服部さんはフリーランスとして独立した。「普通なら、そこで就職して一旦修業してという

Branch Box  
2018.02



焼き物の新たな可能性を探るための家具

常滑焼を使ったツール。常滑焼の特徴ともいえる“朱泥”を用い、また、産業と関連性の深い常滑焼ならではの技術を活用している。陶器の硬く冷たい印象を、湯たんぼのようにお湯を入れることで、温かく柔らかなものへと変化させている。

Vol.87 素材とうま味



ようなことを考えるのですが、あまりそんなふうには思わなくて、自分でやってみようということが一番に来てしまいました。企画なり、ワークショップなり、卒業してから僕一人ですけど活動しはじめました。そういう意味では、彼には社会に出てからの師匠がいますが、僕にとっては平田先生(平田哲生教授)や駒井先生(駒井貞治准教授)が師匠なんです」

卒業後、袂を分かった二人が、再び、道を同じくするのが助手の仕事だった。「就職せず自分一人でやっていたので、平田先生もたぶんご心配なさっていたのではないかと思います。年に一度は声をかけていただいて、何かしら関わらせ

## Baton Series 2016.09



東京都檜原村で育った  
ヒノキ間伐材の“枝”を  
持ち手に使用

東京都檜原村のヒノキの間伐材を利用した箱。枝をそのまま持ち手に利用、温かみのある形に。一本、一本、表情が異なる場所も魅力。



アップサイクルの視点でデザインした  
家具のシリーズ

良品計画のライフスタイルショップ「IDÉE」が取り組むアップサイクルをテーマにしたプロジェクトのシリーズ。廃棄される予定のパイプ椅子に籐の座面と背もたれを施し、新たな品質と付加価値を与える。工業製品と籐という日本の伝統工芸をマッチング。

## NUA-OB

デザインスタジオ Bouillon (ブイヨン)

服部隼弥 / 那須裕樹  
(はっとり しゅんや) / (なす ひろき)

二人とも1987年生まれ  
2010年 デザイン学部スペースデザインコース卒業  
卒業後 フリーランスデザイナー(服部) 設計事務所勤務(那須)、  
本学、デザイン学部助手(共に)を経て、2016年 デザインスタジオ  
Bouillon設立

《受賞》  
Salone Satellite Award 2016 . 2nd Prize / 2016  
IFFT Young designer award / 2016  
《展示》  
IFFS / DESIGN STARS (Singapore 2016)  
Salone del Mobile Milano / Salone Satellite (Italy 2016)  
Interior Life Style TOKYO / TALENTS (Tokyo 2016)  
IFFT Interior Lifestyle Living 2016 / TALENTS (Tokyo 2016)  
ambiente 2017 / TALENTS (Germany 2017)  
Salone del Mobile Milano / Salone Satellite (Italy 2017)  
Salone del Mobile Milano / Salone Satellite is twenty years old (Italy 2017)  
CUTTING COMPOSITION Exhibition / セコリ荘金沢 (Kanazawa 2017)  
ShopDisplay / IDÉE SHOP Jiyugaoka (Tokyo 2017)  
FES Watch U 7 Designers' Salon / MoMA Design Store (Tokyo 2017)  
ShopDisplay / IDÉE SHOP Jiyugaoka (Tokyo 2018)

ていただきました。その後、3年間、デザイン学部の助手の仕事をやることができ、そこでしっかりと準備することができました(服部) 時を同じくして、那須さんも助手となる。「僕も、大学の助手で一度戻ってきて、服部君と再会して学生のときみたいに何かやろうと始めました。今にして思えば、学生の頃にやっていたことが今につながってるんです。僕らが普段やっている業務と大学とやっていたプロジェクトというのは、そんなに差がないですね(那須)」



彼らの作品には、恩師である平田教授、駒井准教授らの教えや考えが息づいているように思わ



丸太をまるごと使用した  
家具の提案

製材の際に切り捨てられた丸太の端材を利用した家具。丸太のサイズに合わせたスチールフレームを組み合わせたシンプルな構造。やはり、一つひとつ異なる表情を見せ、それぞれに個性があることが魅力となっている。



## Extra 2017.03



れる。ことに平田教授による常滑でのプロジェクトは、大きな影響を与えたという。「大学2年のときから、二人とも常滑のプロジェクトに参加しています。家具というのは、思うより単純でなく、長く使ったり思い入れがあるものです。プロダクトとなると作り手の見えないものが多いですが、一点、一点、誰かが作っている、そういったプロセスが感じられるようなものが家具にあってもいいんじゃないかと考えるようになりました。結局、4年生になるまで常滑のプロジェクトに参加して、自分たちで展覧会をやったり、町の人に話を聞いたり、今やっていることそのものです(那須)」



「ミラノデザインウィーク」若手デザイナーの発表の場である「サローネ・サテリテ」に出品された「Warm stool」も、常滑と直接的なつながりを持つ。常滑で活動する陶芸作家と出会い、産業と深く関わっていた常滑焼の特性を生かしたものとなっている。「サローネに出すということで、

素材に対して新しいアプローチが必要だと考えていました。常滑という地域と歴史を知るようになり、本来、常滑の焼き物は工業製品に近いところにあるにもかかわらず現在は工芸的になっていたりします。僕らなりに何か原点復帰できるようなことはないかと考えました(服部)「焼き物に対して自分たちも深く関わって、素材に対するBouillonというデザイン事務所自体の在り方みたいなものを作り上げたスタートでした。指標になりましたね(那須)」



公式サイト ([www.design-bouillon.jp/works/](http://www.design-bouillon.jp/works/)) には、10点余りの作品が掲載されているが、進行中のプロジェクトが今夏あたりから一気に実を結ぶことになりそうだという。

直情的に行動を起こす「動」の服部さんと、じっくり冷静に考える「静」の那須さんが補完し合う関係かのように見えていたが、話を聞いているうちに、お二人共に同じ熱さを持っているチームなのだと感じた。

## ミュージカル、一直線です！



Vol.88  
NUA-Student

小椋奈々

(おぐら なな)

音楽領域  
ミュージカルコース 4年生



2016年に行われた3年に1度あるあいちトリエンナーレ「ショービジネスに乾杯！2016」



1年生で出演したミュージカルコース公演「Girls～ブロードウェイの魔女たち～」ルージュ役



### ミュージカルコース、選んだ理由は？

もともとは、特に目標もなく、普通に大学に行ってそこから何かやりたいこと決めればいかなと思っていました。高校生のときですね。それが、高校3年になる前の春休みにミュージカル映画の「マン・ミーア！」を観て、「これやりたい！」ってなって(笑) 高校三年生なので、両親も学校の先生も「えっ?!」と突然の告白に驚いていました。(笑) 高校の吹奏楽の先生がいろんな芸大に詳しいと聞いたのでたずねてみると、名古屋芸術大学にミュージカルコースがあると教えてくださり、そこからは一直線です！ 決めた、行くぞ！みたいな。春に知って、夏に受験して、とんとん拍子です。

### 受験のパターンもいろいろあるじゃない。どれで受けたの？

AO入試で受験しました。AO入試は、実技がなくて面接と小論文のみでした。一般入試だと、歌があったりダンスがあるのですが、決めてから我慢できず、AO入試で。秋には合格が決まっていました。

### 小論文はどんなこと書いたの？

「あなたを魅了したミュージカル作品」という課題だったのですが、その直前に劇団四季の「美女と野獣」を観て、世界観にもすごく圧倒されて、そのことを書きました。でも、ミュージカルを目指したきっかけは「マン・ミーア！」面接ではその話を。森泉先生(森泉博行教授)に、小論文は「美女と野獣」だけど、いいのかなと指摘されてしまいました。知ったばかりのミュージカルの魅力の一つにまとめる事は出来ませんでした。(笑)

### ダンスとか、なにかやってた？

幼稚園の年長のころから、クラシックバレエとピアノを習っていました。バレエもピアノも友達がやり始めて、私も、やりたいやりたいとおねだりして。高校に入って、ヒップホップに興味がありダンス部があると聞いて、コロッと変えてダンス部に入りました。最

初のころは、ヒップホップなのにバレエの癖で背筋が伸びてて、慣れるまでしっかり練習しました。今思えば、ヒップホップのリズム感とかグルーブ感がすごく役に立ってますね。バレエとヒップホップ、両方を取り入れながら今はジャズダンスをやっています。ヒップホップのダンスでは、高校の全国大会まで行きました。

### 歌はどう？

歌と演技はやったことがなくて、受験すると決めたからです。

### でも、いろいろ歌い込んでそう！ 高校時代、カラオケとか行きまくってたでしょ(笑)

すごく行っていましたね。もともと歌うことは大好きで、週に一回のペースで行っていました。(笑) たぶん、それもあってミュージカルをやりたいと……

### レポートリーは？ 最高、何点くらい出した??(笑)

いきものがかりさんのYELLで、97点です(笑) ロックやJ-POP、いろんなジャンル、歌いますよ。

### ヒトカラ(一人カラオケの略)とかも？

大学に入ってから行くようになりましたね。お芝居の練習と歌の練習で。学校から帰って来て、夜、もうちょっとやりたいとなると、クルマを走らせてカラオケです。すごい集中出来て、近所迷惑にもならないのでオススメです！

### ミュージカルコースの1日ってどんな感じ？

朝、学校に来て、ジャージに着替えて、授業もジャージで、お昼にも稽古があるので稽古して、午後の授業に出て、夜まで稽古か自主練習。校内、ジャージでうろついている子がいたらミュージカルコースです！(笑)

### それで、舞台とか定期的に入ってくるんだ

そうですね。夏休み、春休み、長期休みは公演と稽

古が入りますから、お休みは年末年始とお盆くらいですね。多いときは、月に4つステージがあるんです。今も、3週連続ステージです。土日の本番に向かって、短い期間で作り上げる。短い時間で作り上げられるようになれば、長い稽古でも作り上げられるので、スピーディーに自分の中に役を落とし込むことを意識するようにしています。

### スゴイ！すでにプロ仕様の生活なんだ！ 舞台をやっていくうちに身に付くと

実際にステージに立つことで上達するんだと思います。お稽古ばかりしていても、それを出す場がないと。やっぱり形にするのがミュージカルだと思います。名芸のミュージカルコースは、実際に舞台に立つ機会が一年を通して凄く多いのが本当に強みです。練習室もたくさんありますし、本当に最高の環境で学ばせていただいています。

### 練習もタププリできて、実践の場もある

私はダンスしかやっていなかったのですが、歌もダンスも演技指導も先生方が本格的に教えてくださるので、経験がなくても大丈夫です。今年の1年生からはカリキュラムに実技の授業が増えていて、とっても羨ましいです。こっそり聴講しようと思います。

### 今後は？

在学中からオーディションを受けて、劇団や事務所に所属したいと思っています。四年生なのでオーディションが就活ですね。在学中は先生や先輩、OGOBの方々と共演する機会が嬉しいことあるので、勉強になる部分をどんどん吸収していきたいです。舞台で活躍されて、キラキラオーラを放つ方々の側で舞台に立てるほどタメになることは無いので、残り1年しっかり学んで行きたいです。

滝子幼稚園の教育

平成30年度は、新しい幼稚園教育要領の告示を受けて、4月から施行する節目の年です。改正の趣旨をしっかりと踏まえた園教育を進めていきます。幼児期の教育の重要性がますます高まる中で、責任と自覚を持って、全教職員が一丸となり、園児が来なくなる幼稚園、保護者が通わせなくなる幼稚園、教職員

が働きたくなる幼稚園をめざします。

■教育理念

一人一人の個性を大切にしながら豊富な生活体験により、その子らしい考え方や取り組みを実現していく過程を大切にします。

■教育目標

- 心身ともにたくましい子ども(意)
- 情操豊かな子ども(情)
- 知的好奇心の旺盛な子ども(知)

■教育の理想

- あそびを中心とした幼児期にふ

さわしい生活を通して、子どもたちの主体的活動を促す指導を重視し、教育課程(教育計画)を編成する。

- 「知・情・意」の「意」の育ちに重点を置き、自分の意思を持って行動できる子ども「みずから動き出す子ども」の育成をめざす。

- 3つの活動(からだあそび、造形表現あそび、音楽表現あそび)を柱に、子どもの体と心の育ちに視点を当てた実践研究を進める。
- 行事に向かう過程では、集団の中での一人一人の心の動きを丹念にみとり、具体的な目標を立て、その達成をめざして指導をする。

■滝子幼稚園年間行事予定

1学期	2学期	3学期
一人ひとりのありのままを受けとめて! 安心・安んずる時期	意欲的に「やってみる時」! 自己発揮、力と心を合わせる楽しさを	僕、私、素直みんな大好き! 自己肯定感が育ち、認め合い、励まし合い一人ひとりの笑顔が自信に満ちて輝く春
4月 入園式・進級式 学級懇談会	9月 ボディペインティング(少) 老人福祉施設訪問(中・長)	1月 観劇会 体操参観(少)
5月 子ども祭り 内科検診 母の日(プレゼント) 親子遠足	プール参観(中・長) ちゅうりっぷフリー参観 ちゅうりっぷリズム遊び(少)	ドッチボール(長) ボールあそび(中)
6月 泥んこ遊び 歯科検診 家族ふれあいの日 父の日(プレゼント) 水遊び	10月 運動会 いもほり遠足 保專・幼児園合同避難訓練 豆消防士体験(長)	2月 節分豆まき 1日動物園 生活発表会
7月 お店屋さんごっこ 七夕保育参観 ちゅうりっぷ七夕(長) お泊まりキャンプ(長) 夏季保育	11月 年長組園外保育(実体験) 年中・少園外保育 造形展 なわとび(中・長)	3月 ひなまつり会 ドッチボール大会(長) 親子給食(長) 学級懇談会(全学年) ちゅうりっぷお別れ会(少) お別れ遠足
8月 夏季保育 夏祭り&音楽会(長) 陶芸体験(長) 新1年生の集い(1年生)	12月 個人懇談会 クリスマス会 大掃除・年賀状作り(長) もちつき	音楽参観(中・少) 卒園式・終業式



Column NUA No.40

芸術と交差する教養

芸術教養領域教授 茂登山 清文

名古屋芸術大学で二度目のお勤めを始めて、二年経ちました。二度目というのは、1984年から98年まで、美術学部デザイン科で「造形実験コース」を担当していたからです。専任として大学に勤めるのはその時がはじめてで、「造形実験」も翌年、最初の学生を迎えるという状況でしたから、試行の連続でした。学生たちと走り続けた刺激的な日々は、現在の私の少なからぬ部分を形成しています。と、思い出に浸っているのもどうかと思うので、今のことに戻りましょう。

くしくも、今回もまた「芸術教養領域」というあらたな部門に、その創設される一年前から、立ち上げにかかわることができました。ということで、「芸術教養」についてです。この言葉、聞き慣れないと思いますが、「芸術」と「教養」とに分けてみると少し分かりやすいでしょうか。そもそも「芸術」は、説明の必要はないですよね。と言ってしまうと、誤解されるかもしれません。必要がないのではなく、みなさんが肌で理解しているその芸術こそが、下手な説明よりはるかにリアルであり、説得的な力がある、ということなのです。

次に「教養」です。それについて自覚的に考えたのは、知人に声をかけられ、ある大学の教養系の学部の構想にアイデアをだした十年ほど前のことです。自然科学系だったのですが、その数年前から研究テーマとしていた「ヴィジュアルリテラシー」と深くつながっていると気づきました。しかし思い起こせば、名古屋大学に移ることが決まった時から、自分のミッションは、芸術なき総合大学で、アートについて語る、視覚的思考を説く、ということだと意識し始めていました。名大の側からすれば、

芸術を「教養」としてとらえていたのだと思います。ですから、当時は「教養」という響きをあまり肯定的には受けとめることはできませんでした。でも、総合大学で「教養」として芸術を教えることと、芸術大学に「教養」を導入することはまったく異なります。

教養には、おおまかに言うと二つの流れがあります。ひとつはギリシアに源をもち、ヨーロッパ中世に完成をみる自由七学芸 Artes Liberales です。自由人たりうる、目的から自由な学問である教養には、当時から、音楽と幾何学(図の学問)が含まれています。芸術大学でこそ「教養」が学べる、学ぶべきだという理由がここにあります。

他方は、近代ドイツにおける、自己形成としての教養 Bildung です。こちらは、Bild(像、絵画)に遡り、bildende Künste(造形芸術)にも分枝します。教養小説として知られる『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』を書いたゲーテの小説や戯曲には、多くの楽曲が作られているし、彼が描いた夥しい数の絵のうち、2600枚ほどが今も残されています。

こうみると、教養と芸術とが、実のところ大きく重なっていることがわかります。では、半ば高踏的な精神教育と、私たちが設定している実学に近いリテラシー科目とは、どこで出会うのでしょうか。それについては楽観的です。なぜならそれらはもとよりひとつで、その質を保証できる講師たちが芸術教養領域での教育に力を貸してくれているからです。



出 Books 版

教職員著作の出版物のご紹介です。

(編集期限までに報告されたもの)



■西村和泉(訳)  
(名古屋芸術大学芸術学部 芸術学科デザイン領域准教授)  
『イメージの内  
絵画と映画のあいだの  
メルロ=ポンティ』  
マウロ・カルボネ(著)  
●発行/水声社



一旦、作業始めると3時間程度はノミをふることに。制作が佳境に入れば、毎日6時間ほどを制作作業に当てるといふ。



学生時代の作品と卒業式のときの写真(1978年)



# マスター to アーティスト

【第40回】

〈 素材と向き合う 〉  
魅力



■ Form 0508  
2005年 榉(けやき)  
H31×W60.5×D16

## 岩井義尚

(いわい よしなお)

美術領域 アートクリエイターコース(彫刻)  
教務学生主任 教授

- |                                     |                                    |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1954年 静岡県生まれ                        | 1987年 彫刻村 IN GUJHO (岐阜県郡上市八幡町)     |
| 1978年 名古屋芸術大学美術学部彫刻科卒業              | 1988年 「愁一III」テラコッタ 彫刻独展 (ギャラリームース) |
| 名古屋芸術大学非常勤副助手                       | 1993年 美浜町・花の寺 心月齋                  |
| 1998 イギリス (Falmouth College of Art) | 「大間・内陣・開山堂の天井画」企画・制作               |
| ~99年 研修                             | 1994年 伊吹町 薬草の里モニュメント               |
| 2010年 美術学部美術学科教授                    | 「創」(石) デザイン企画、制作参加                 |
| シンポジウム                              | 1995年 第32回名古屋国際木工機械展における           |
| 1979年 彫刻村 (岐阜県郡上市白鳥町石撒白)            | 官学展示コーナーへの企画参加                     |
| 1983年 「彩」塑造、彫刻独展 (キャラリー花菱 浜松)       | (学生及び講師の作品展示による参加)                 |
|                                     | 開催期日10月6日(金)~10日(火)                |



アトリエにお邪魔した。住所は、岩倉市の住宅街。木彫作家のアトリエである。倉庫のような場所、あるいは製材所のようにおがくずがたくさんあるようなアトリエを想像していると、現れたのは瀟洒な3階建ての住宅。聞けば、新築したご子息のお宅の一部をアトリエとして利用されているとのこと。木彫のイメージとは異なるドアを開けると、一気に鼻腔に木の香りが流れ込む。「クスノキですよ」かたづけられたアトリエの中には、大小、さまざまな作品が置かれている。人物、抽象的なオブジェ、そして、作業台に乗せられた大きな塊からも、香気が放たれている。形もさることながら、素材の木目も目は惹きつけられる。アトリエ内には、木彫だけでなく、テラコッタの作品、スケッチ、画集、



フィギュア、ミニカー……、作家の興味の変遷をたどるかのようさまざまなものが置かれている。

2000年代から精力的に行われてきた個展を見たことがあれば、立体だけでなく平面作品にも素晴らしいものがあるとわかりだろう。木彫のためのアイデアスケッチの範疇を超える、デザイン的な線画。木彫にしても、暖かな子供像があり、抽象的な作品があり、空間を意識したインスタレーションの装置のためのような作品があり、多面的な魅力に満ちている。それらの源は何処にあるのだろうか。「最初はね、中学のときです。教科書に高村光雲の『老猿』が載っていて、そこからです。『作りたい!』と思いたね」でも、そこからが苦勞の始まり。「僕は、浜松出身なんです、美術科のある高校がなくて、デッサンがやれるところということで工業高校のデザイン科に進むわけです」立体

をやりたいと思いつつ、デッサンに打ち込んだという。高校の同級生らは、今でもデッサンに励む姿を思い起こすという。高校3年になるとデザイナーとして就職先が斡旋されたというが、美術をやりたい気持ちがまさり、美大へと進学した。大学では、彫刻をやるか、日本画に進むか迷ったというが、立体への気持ちがやはりまさった。

「学生時代は、粘土とデッサン、クロッキーだけでしたね。木彫をやりはじめたのは、大学を卒業して7、8年経った頃からですね」岩井氏は5期生。当時、本学では木彫にしっかりと取り組んでいける体制は整っていなかった。「道具は、タタキのみ二本と木槌と砥石だけ。それだけのセットで小さなものを作ったりしました。仏面を彫ったりね。でも、一番重要なことは、木を用意できなかったことですね。それで、準備を整えるだけで7、8年かかったというわけで





■ 形 X VIII  
1992年  
クミ  
H50×W18×  
D11



■ 対 9501  
1995年  
櫛 (けやき)  
H164×W165×  
D50



■ Form  
1304  
「遊No.9」  
2013年  
H79×W50×  
D80  
櫛 (クス)

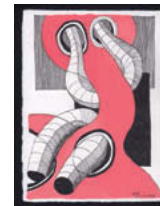


■クロッキー (デッサン)



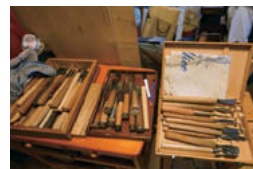
■ Form 1501  
2014年  
H90×W240×D75  
櫛 (ケヤキ)

■ドローイング



1995年 「接 9502」木彫 岩井義尚木彫展1990-1995 (ギャラリー沙和・名古屋)  
「族 9502」木彫 岩井義尚木彫展 (ギャラリースミ)名古屋  
「族 9610」木彫 第6回展・彫刻とテキスタイルワーク (GALERIE 141・名古屋)  
1997年 作品「Form 1997」彫刻村25周年記念現代彫刻展愛知県江南市民文化会館  
個展 岩井義尚彫刻展 (ギャラリースミ)名古屋作品「1997 愁」  
1998年 岩井義尚彫刻展 (ギャラリースミ・名古屋)  
1999年 第7回展彫刻とテキスタイル・ワーク (GALERIE 141・名古屋)  
2000年 岩井義尚彫刻展 (ギャラリースミ)名古屋  
～ 岩井義尚木彫展1990-2000 由美画廊 (浜松)

2013年まで毎年個展を開催  
2010年以降は中部二元会に所属  
中部二元会会員 委員(審査)  
ちゅうしんアートギャラリー (中日信用金庫)  
展示プロデュース・出品  
「Art of 20歩」クロッキー指導  
中部二元会研究会 クロッキー・デッサン指導



同じメーカーで揃えられた道具たち。使い慣れたものが一番だという。自分で磨ぎ、30年以上使っているもの。



す」素材となる木は、しっかりと乾燥したものでなければならぬ。乾燥材として販売されているものは値が張りとても買えなかった。そこで、生木を購入し時間をかけて乾燥させることになり、結果、長い年月が経ってしまったという。「79年に彫刻村へ参加していますが、そこでいろいろなことを教わりました。のみの使い方やチェーンソーの扱い方、木の種類……、材料も、製材所より材木チップ屋さんから買うほうが安いと、教わりました」

本格的に木彫を始めるまでの間、石膏で像を造った。「直付け」という技法で、骨組みを組んでおき、そこに石膏を直接、布で付けていく。この作業が、大いに役立ったという。「粘土もそう

なんですけど、頂点を作っていく作業ですよ。底点から頂点を作っていく作業。木彫は逆です。頂点から底点を作っていく作業。そんなに意識として、変わりはないんですが、プラスの作業をやっていないと、削るというマイナスの作業はできないもんなんですよ」

ドローイングについても興味深い。立体を作る人たちは、丹念に何枚も絵を描く。さまざまな方向を考え絵にする。平面を描く人の中にもはじめに立体を作りイメージを作る人がいるが、どうやら立体造形にとってドローイングは平面における立体よりも重要な意味を持っているようだ。「完成予想図ですよ。ドローイングなんていいですけど、ずっと完成予想図というってました。立体を作るためには、最低4方向から見た図が必要です。学生たちにもよく話すん

ですが、このごろは何を調べるにしてもスマホやネットですよ。一場面しか見えない。3Dで発想しないと立体はできないですね」

「木は、自由にならない。時間もかかるし、扱いにくい。変に聞こえるかもしれませんがそこが魅力なんです。人物を彫ると『もっと彫ったら』とよくいわれますが、僕はこれぐらいがいいんじゃないかと思っています。全部、説明すると工芸品みたいに見えてきます。説明しないで、おぼろに見える表情の向こう側を、見る人に想像して欲しいんですよ」アイデアのスケッチは、必ずしもその通りの作品にはならない。素材が生き物であるがゆえ、自由にはならない。枝振りや木目の方向性があり、それらと対話しながら作業を進める。「仕上げていく段階になると木がね、しっとりしてくるんです。『これでいいよ、これでいいよ』と教えてくれるんです」

自由にならないものと対話しながらの制作、立体と平面、美術と工芸、芸術とデザイン……、多面的な魅力はさまざまな要素が複雑に絡み合っているからこそだとわかった。

平成29年度 寄附金合計	2,760,000円
--------------	------------

**1 名古屋芸大生夢サポート募金** 平成29年度の寄附金内容は下表のとおり、新たな2項目(5及び7)を加えた8項目に区分して活用しました。

①寄附金の使途別状況(平成30年3月31日現在) (単位:円)

寄附金の使途	平成29年度寄附金額	前年積立金額	平成29年度使用金額	使用方法等
1 学生に対する奨学金	113,000	0	113,000	4名の在学生から申請があり、奨学金総額の一部に使用させていただきました。
2 音楽活動支援事業	70,000	315,000	335,000	音楽活動支援として、オペラ「こもり」の制作費補助
3 制作活動支援事業	345,000	971,048	690,916	制作活動支援として鉄道の雑貨学生デザイン作品の制作と展示発表モデル代補助
4 子ども教育活動支援事業	53,000	281,000	0	平成29年度は支援申請がありませんでした。よって、平成30年度以降に各使途別の事業への使用を検討の上、活用させていただきます予定です。
5 芸術的素養習熟支援事業	50,000	0	0	
6 キャリア支援事業	0	380,000	0	
7 グローバルな学生を育成するための学生企画の支援	224,000	0	219,000	学生企画「アイムハウス」の懸賞金
8 その他、学生支援の充実を図る事業	35,000	0	35,000	昨年度に引き続き、全学共通教育科目履修等のために、学生のキャンパス間移動を円滑にすることを目的とした「東西キャンパス連絡バス」の運行に係る費用の一部として使用させていただきました。
<b>合計</b>	<b>890,000</b>	<b>1,947,048</b>	<b>1,392,916</b>	

②夢サポート募金対象別状況 (単位:円)

募金対象	寄附金額
1 卒業生	85,000
2 在学生の保護者	56,000
3 教職員・役員(退職者を含む)	679,000
4 その他 賛同する個人・法人・団体	70,000
<b>合計</b>	<b>890,000</b>

③夢サポート募金寄附者について  
平成29年度にご寄附いただいた方は84名、2法人です。  
○寄附者氏名の公表  
<個人>(※50音順 敬称略)  
青木あづさ、川西幸治、教職員(73名)、神戸峰男、久野真一、後藤倬男、杉山青羽、平野春吉  
<法人・団体>  
一般社団法人あおぞら、富士工管株式会社

**2 その他の寄附金**

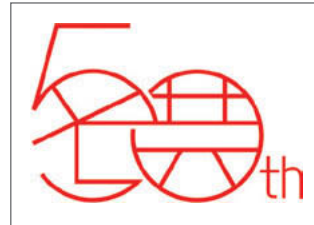
平成29年度は、クリエ幼稚園環境整備募金(121名)650,000円、北名古屋市から生涯学習公開講座負担金460,000円、納屋橋ホテル協賛金(10企業)300,000円、クリエ幼稚園愛園会360,000円、設備備品(1企業)100,000円、合計の寄附金は1,870,000円になりました。  
<寄附をいただいた企業名>  
株式会社ミュージズ、株式会社ワット、内外物産株式会社、東洋通信工業株式会社、東朋テクノロジー株式会社、

富士工管株式会社、東海物産株式会社、株式会社スペース、株式会社大垣共立銀行テラッセ納屋橋支店、ユニー株式会社、西春師勝土地株式会社

**3 名古屋芸術大学創立50周年の募金のご案内**

本学は昭和45年(1970年)私立大学では日本で最初の芸術系総合大学として設立され、平成30年(2020年)に創立50周年を迎えます。学内で周年事業のプロジェクト

チームが設置され、キャッチフレーズは「学生を育てた50年、育てられて50年!~感謝から感動に、そして融合へ!」とし、ロゴマーク(下図)は多数の応募の中から、デザイン学部卒業生「小林園子さん」の作品が採用されました。



平成29年12月に第1回「名古屋芸術大学開学50周年記念事業」実施室会議(教員5名、職員7名(寄附事業担当1名を含む)計12名)が開催され、プロジェクトチームの検討事項を引き継ぎました。

寄附金の募集期間は平成30年(2018年)4月1日から平成33年3月31日まで、目標金額は1億円とし、ホームページ、印刷物(ポスター・チラシ等)で、卒業生・同窓会、在学生・保護者、教職員、取引業者、一般の方等に案内することなど、4月1日の開設に向けて検討が始まりました。

**4 次年度に向けての取り組み**

平成30年度は、昨年度に引き続き「学院寄附金」、「夢サポート募金」、「名古屋芸術大学創立50周年記念募金」、「名古屋芸術大学貯蓄年金ポ

イントカード」を4柱に、案内・依頼文の作成、演奏会・講演会等で、卒業生・同窓会、在学生・保護者、教職員、取引業者、一般の方に募金案内を配付、学院全体で寄附金増額に取り組むことを目標とします。

**5 その他**

名古屋芸術大学貯蓄年金ポイントカードについて、新規申込が平成29年度の演奏会等で13件ありました。当該カードは株式会社サイモンズが発行するポイントカードで、大手企業のネットショップ(約1,200サイト)やサイモンズ加盟店での利用でポイントが貯まり、貯めたポイントは約12,000品目の商品と交換、航空券の購入等に使用可能です。また、総務省が取り組む、マイナンバーカードを使用した地域経済応援ポイントサービスでの利用も可能になっています。

なお、貯めたポイントには有効期限(付与された日の翌年12月31日まで有効)があり、有効期限を過ぎたポイントは失効し使用できなくなりますが、失効ポイントは芸大に寄附される仕組みになっています。貯蓄年金ポイントはチケット、入場料等の料金に対し3倍のポイントが付与されます。ポイントは5年間預かり、6年目に利息を付けてお返しする仕組みで、その一部は若手芸術家の育成のために活用されます。

※寄附及び募金の詳細は寄附事業担当までご連絡ください。  
電話:0568-24-0311(内線:275)  
FAX:0568-24-0311  
E-mail:info-kifu@nua.ac.jp  
「名古屋芸大生夢サポート募金」の詳細はホームページをご覧ください。  
URL:  
http://www.nua.ac.jp/yumesupport/  
「名古屋芸術大学創立50周年基金」4月以降に開設を予定しています。



※Webで検索 **夢サポート募金**

表紙の写真  
《無題》

第45回  
卒業制作展  
takibi 家村賞  
洋画2コース  
池上夢与



発行:名古屋芸術大学  
企画・編集:広報企画部  
デザイン・協力:くまな工房一社  
印刷:森クイックス  
発行日:2018年4月26日  
【お問い合わせ先】  
名古屋芸術大学 広報企画部  
〒481-8502  
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地  
電話 0568-24-0359  
FAX 0568-24-0369  
E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp



※記事中のホームページアドレスは、掲載先の諸事情で移転や閉鎖されている場合がございます。あらかじめご了承ください。